

食育に関する意識調査（アンケート）

概 要 版



平成27年3月

横浜市

食育に関する意識調査結果（概要）

I 調査概要

1 調査目的

横浜市食育推進計画（計画期間：平成22年度から27年度まで）で設定した、数値目標の達成状況を把握・検証するとともに、第2期横浜市食育推進計画（平成28年度から32年度）や食育の取組に、市民の皆様の御意見を反映するため。

2 調査概要

調査概要は下表のとおり。

調査地域	横浜市全域																
調査手法	郵送調査																
調査対象	横浜市民 5,000 人（13 歳未満は保護者等が代理記入）																
調査標本	6 階層において、18 区・男女別で同数ずつ <table border="1"><thead><tr><th></th><th>配布数</th></tr></thead><tbody><tr><td>乳幼児期(0～6 歳)</td><td>800</td></tr><tr><td>学童期(7～12 歳)</td><td>800</td></tr><tr><td>思春期(13～19 歳)</td><td>900</td></tr><tr><td>成人期(20～39 歳)</td><td>900</td></tr><tr><td>壮年期(40～64 歳)</td><td>800</td></tr><tr><td>高齢期(65 歳以上)</td><td>800</td></tr><tr><td>全体</td><td>5,000</td></tr></tbody></table>		配布数	乳幼児期(0～6 歳)	800	学童期(7～12 歳)	800	思春期(13～19 歳)	900	成人期(20～39 歳)	900	壮年期(40～64 歳)	800	高齢期(65 歳以上)	800	全体	5,000
	配布数																
乳幼児期(0～6 歳)	800																
学童期(7～12 歳)	800																
思春期(13～19 歳)	900																
成人期(20～39 歳)	900																
壮年期(40～64 歳)	800																
高齢期(65 歳以上)	800																
全体	5,000																
調査期間	平成 26 年 11 月 4 日（火）から 11 月 17 日（月） 平成 26 年 11 月 30 日（日）分まで反映																
調査内容	1 ふだんの生活について（睡眠時間、健康状態 等） 2 食事の状況について（食事の摂取状況、食生活で気をつけたいこと 等） 3 食育について（食育の関心度、食育の関心事項、地産地消の認知度 等） 4 食の安全や食に関する情報について（食の安全の認知度、食中毒を防ぐために家庭で気をつけていること 等）																

3 回収結果

回収数 2,026票（回収率 40.5%）

※平成24年度調査 回収数 2,025票（回収率 40.5%）

区別及び年齢別の回収結果は下表のとおり。

階層別回収状況

	度数	割合
乳幼児期(0～6歳)	179	8.8%
学童期(7～12歳)	196	9.7%
思春期(13～19歳)	264	13.0%
成人期(20～39歳)	357	17.6%
壮年期(40～64歳)	420	20.7%
高齢期(65歳以上)	417	20.6%
無回答	193	9.5%
合計	2,026	100.0%

年代別回収状況

	度数	割合
0～9歳	260	12.8%
10～19歳	379	18.7%
20～29歳	119	5.9%
30～39歳	238	11.7%
40～49歳	240	11.8%
50～59歳	117	5.8%
60～69歳	177	8.7%
70～79歳	201	9.9%
80歳以上	102	5.0%
無回答	193	9.5%
合計	2,026	100.0%

区別回収状況

	度数	割合
青葉区	103	5.1%
旭区	118	5.8%
泉区	114	5.6%
磯子区	114	5.6%
神奈川区	119	5.9%
金沢区	124	6.1%
港南区	106	5.2%
港北区	107	5.3%
栄区	120	5.9%
瀬谷区	103	5.1%
都筑区	101	5.0%
鶴見区	102	5.0%
戸塚区	119	5.9%
中区	105	5.2%
西区	114	5.6%
保土ヶ谷区	113	5.6%
緑区	118	5.8%
南区	107	5.3%
無回答	19	0.9%
合計	2,026	100.0%

4 集計結果の見方

分析方法 統計分析は横浜市衛生研究所が行った。

< 報告書を見る際の注意点 >

- ① 各図中の右側に示した「n=〇〇」は、その質問や集計に対しての「有効回答者数」を表す。
- ② 調査結果の比率はすべて百分率で表し、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- ③ 設問文の中に複数回答が可能な設問は、回答の合計は100%を上回る。
- ④ 選択肢の中で、第1位の項目については、濃いピンクで塗りつぶしている。
属性別にみて、特徴的な項目（他の数値と比べて概ね10ポイント以上数値が高い項目）については、薄いピンクで塗りつぶしている。
- ⑤ 本文中の表現について、平成21年度（前々回）調査は、「平成21年度食育に関する意識調査」（横浜市実施）のことを、平成24年度（前回）調査は、「平成24年度食育に関する意識調査」（横浜市実施）のことをいう。
内閣府調査は、「平成25年度食育に関する意識調査」（内閣府実施）のことをいう。

II 概要版に掲載している調査結果について

この概要版では、食育推進計画で設定した「数値目標」に該当する調査結果を抜粋して、掲載しています。

◇食育推進計画で設定した「数値目標」一覧

現状	目標	数値目標		21年度	24年度	26年度	目標値
よく知ろう							
「食事バランスガイド」を参考にしながら、食生活を送っている人は少ない。	生活習慣病予防に重要な食事の栄養バランスの様々な指標に対する関心を高め、理解することによって、より健康的な食生活を営めるようにする。	食事バランスガイド等を参考に食生活を送っている市民の割合		29.7%	33.9%	29.8%	70.0%
家庭などでできる簡単な食中毒予防に関する知識が十分に浸透していない。	食品の安全性に関する話題への市民の関心を高め、基礎的な知識を身につけることにより、家庭で発生する食中毒による健康被害を減少させていく。	食品の安全性に関する基礎的な知識をもっている市民の割合 ※1		45.1%	51.2%	43.4%	60.0%
これをやってみよう							
横浜産の農畜産物に関するマークや愛称を知っている人が少ない。	「はま菜ちゃん」の認知度を高めることを通して、多くの人が横浜産農畜産物への愛着を持つことができるようにする。	「はま菜ちゃん」を知っている市民の割合 ※1		33.4%	35.2%	30.8%	45.0%
地産地消を知らない人は知っている人に比べて、市・県内産農畜水産物の購入意欲が低い。	地産地消という言葉の認知度が高まり、市・県内産農畜水産物の購入意欲が高まる。	地産地消の意味を知っている市民の割合		52.2%	63.9%	66.5%	60.0%
はなしあおう							
市・県内産農畜水産物の生産量等に限られる中、学校給食で市・県内産農畜水産物をできるだけ多く使用するようにしている。	市立小学校の学校給食において、市・県内産物を使用する機会を増やすことを通して、小学生の食料自給率への関心の高まりにつなげていく。	市立小学校の学校給食において、市・県内産物を使用する割合		15.3%	15.3% ※2	13.8% ※3	20.0%
まいにちやってみよう							
20代・30代男性は、朝食を欠食する人の割合が高い。	より多くの20代・30代男性にとって、毎日の生活のスタートであり「一日の活力の源」である朝食を食べることの大切さの理解を深め、習慣化につなげていく。	朝食を欠食する市民の割合 ※3	20代男性	57.1%	51.1%	27.3%	15.0%以下
			30代男性	34.8%	45.7%	37.1%	15.0%以下
まいにちやってみよう							
1日あたりの野菜の摂取量は十分ではない。	健康に良い野菜のおいしさを実感し、1日の食事の中に、野菜を使ったメニューをもっと増やしていくような啓発を進めていく。	1日あたりの野菜摂取量 ※4		275.6g	271g ※4	— ※5	350g以上
①食事の栄養バランスの偏りに加え、食生活の乱れが生活習慣病の増加を引き起こしている。 ②いわゆる「孤食（一人で食べる）」の常態化により、食事への関心が薄れ、不規則な食事に陥りがちとなることへの懸念が指摘されている。	生活習慣病予防のために、日々の食事習慣「基本は、1日3食バランスよく」を実践することを心がけるように、啓発を強化していく。	適正体重である市民の割合 ※4	20～60代で肥満でない男性	75.9%	70.5% ※4	— ※5	85.0%以上
※食育推進計画全体に関わるもの							
食育に関心をもっている市民の割合 ※1				73.7%	65.3%	64.2%	90.0%

- 注) ※1・・・0歳以上、それ以外は20歳以上を対象とします。
 ※2・・・平成24年度地場産物の使用状況調査
 ※3・・・平成25年度地場産物の使用状況調査
 ※4・・・平成21年度～23年度の国民健康・栄養調査。誤差の影響を抑えるためには、一定の対象者数が必要であることから、3年分を集計しています。
 ※5・・・国民健康・栄養調査。誤差の影響を抑えるためには、一定の対象者数が必要であることから、平成25年度～27年度の調査結果を集計後算出します。

◇調査項目 (27問)

設問	内容
問1	あなたはふだん（平日）の夜は、何時頃に寝ることが多いですか。
問2	あなたのふだんの睡眠時間は、およそ何時間くらいですか。
問3	あなたの健康状態はいかがですか。最近の状況に最も近いものをお答えください。
問4	あなたは、ふだんの食事の時間が楽しいですか。
問5	あなたが、食事に関して困っていることは、どのようなことですか。
問6	あなたは、日頃の食生活で悩みや不安を感じていますか。
問6-1	悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。
問7	あなたはふだん、朝食・昼食・夕食をどの程度食べていますか。
問7-1	朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。
問8	あなたはふだん食事の際に、習慣にしていることはありますか。
問9	【新規設問】 あなたの外食の回数は、どの程度ですか。
問10	あなたはふだん、朝食・夕食を、家族等同居されている方とどの程度一緒に食べていますか。
問11	あなたのご家庭では、誰が調理の中心となっていますか。
問12	あなたはふだん、朝食・夕食をどの程度、ご友人などと一緒に食べていますか。
問13	あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていますか。
問14	あなたは「食育」に関心がありますか。
問14	あなたは次の「食育」に関する項目にどの程度関心がありますか。
問15	【新規設問】 あなたは、次の、横浜市の食育推進ロゴマークを知っていますか。
問16	あなたは次の「食育」に関する項目にどの程度関心がありますか。
問17	あなたは、健康的な食生活を実践するため参考にしている指針等がありますか。
問17-1	あなたは、どのような指針等を参考にしていますか。
問18	あなたが、横浜らしい「食べ物」や「料理」と思うものは何ですか。1つだけ、ご自由にお書きください。
問19	あなたは「地産地消」とは何か知っていましたか。
問20	あなたは、「地産地消」につながる以下のマークを見たことがありますか。
問21	あなたは、どのような場所で、それらのマークを見ましたか。
問22	あなたは横浜市や神奈川県農畜産物・水産物を、購入したいと思いませんか。
問23	【新規設問】 あなたは魚を、週または月に、何回程度食べますか。
問24	あなたは、どの程度、食品の安全性に関する知識（食品の表示の見方や食中毒菌について等）があると思いませんか。
問25	あなたは、食中毒を防ぐために、家庭で次のことに気をつけていますか。
問26	あなたは、食や食育について、どのようなメディアから情報を提供してほしいと思いませんか。
問27	食や食育について、行政（横浜市）に期待することがありましたら、ご自由にお書きください。

※ゴシック体は、抜粋版に掲載している設問です。

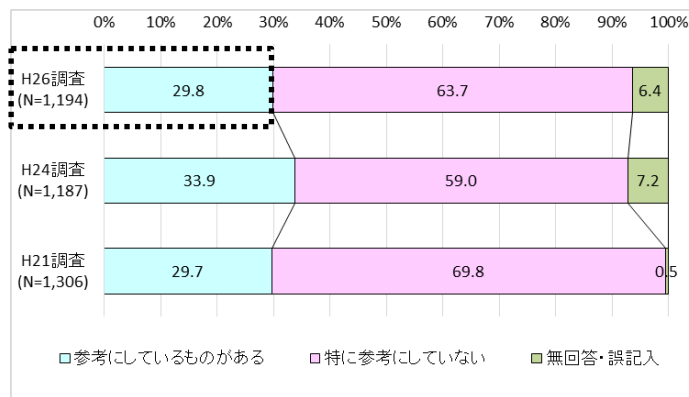
～ 数値目標に該当する調査結果の経年変化 ～

健康的な食生活を実践するため参考にしている指針等がある人は、全体の約3割。

問17 あなたは、健康的な食生活を実践するため参考にしている指針等がありますか。(〇はひとつ)

- 平成21年度(前々回)調査、平成24年度(前回)調査について20歳以上の数値を比較すると、「参考にしているものがある」の数値は前回調査の段階ではいったん増加しているが、今回調査では、29.8%と、平成21年度調査と同程度の水準に戻っている。(平成21年度調査については「食事バランスガイド」の参考状況の数値)。

図 平成21年度、24年度調査との比較「参考にしている指針等の有無」(20歳以上)

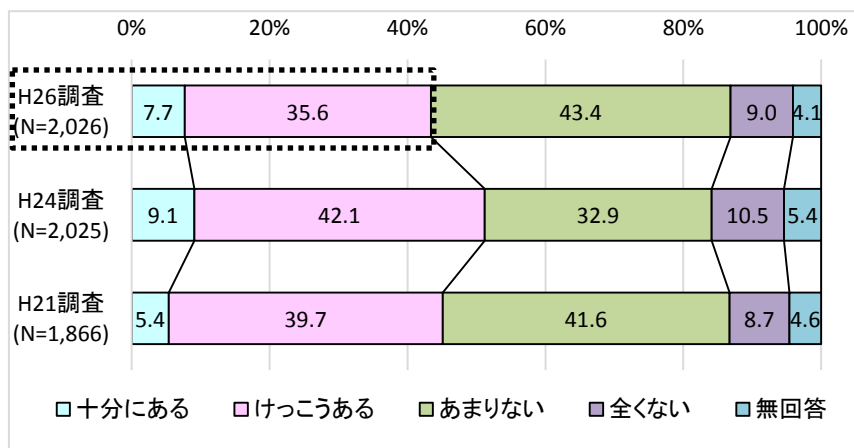


食品の安全性に関する知識について、十分にある、けっこうある、人の割合が5割以下。

問24 あなたは、どの程度、食品の安全性に関する知識(食品の表示の見方や食中毒菌について等)があると思いますか。(〇はひとつ)

- 平成21年度(前々回)調査、平成24年度(前回)調査と比較すると、「十分にある」「けっこうある」を合わせた数値は平成24年度調査でいったん51.2%まで増加したが、今年度調査では7.8ポイント減少して43.4%となっている。

図 平成21年度、24年度調査との比較「食品の安全性に関する知識」

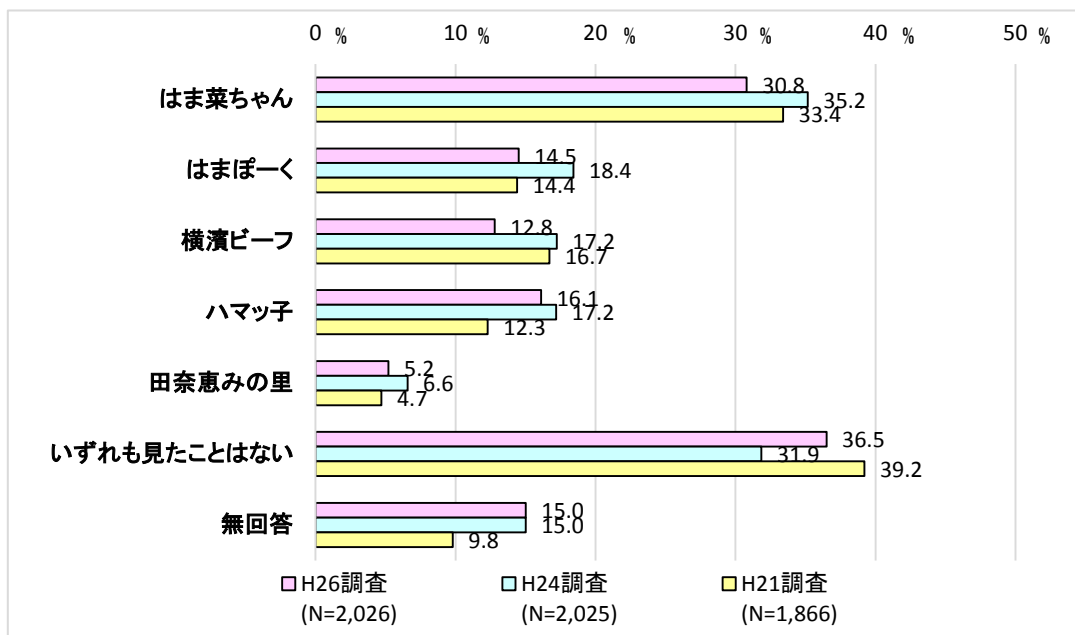


「地産地消」につながるマークの認知度について、「はま菜ちゃん」は約3割。

問 20 あなたは、「地産地消」につながる以下のマークを見たことがありますか。(〇はいくつでも)

- ・平成 21 年度（前々回）調査、平成 24 年度（前回）調査と比較すると、「はま菜ちゃん」を知っている市民の割合は前回調査で 35.2%まで増加したものの、今年度調査では 4.4 ポイント減少して 30.8%となっている。また、「いずれも見たことはない」の数値は、前回調査で大きく減少したが、平成 21 年度調査の水準までは戻らないものの、4.6 ポイント増加して 36.5%となっている。

図 平成 21 年度、24 年度調査との比較『地産地消』につながるマークの認知度

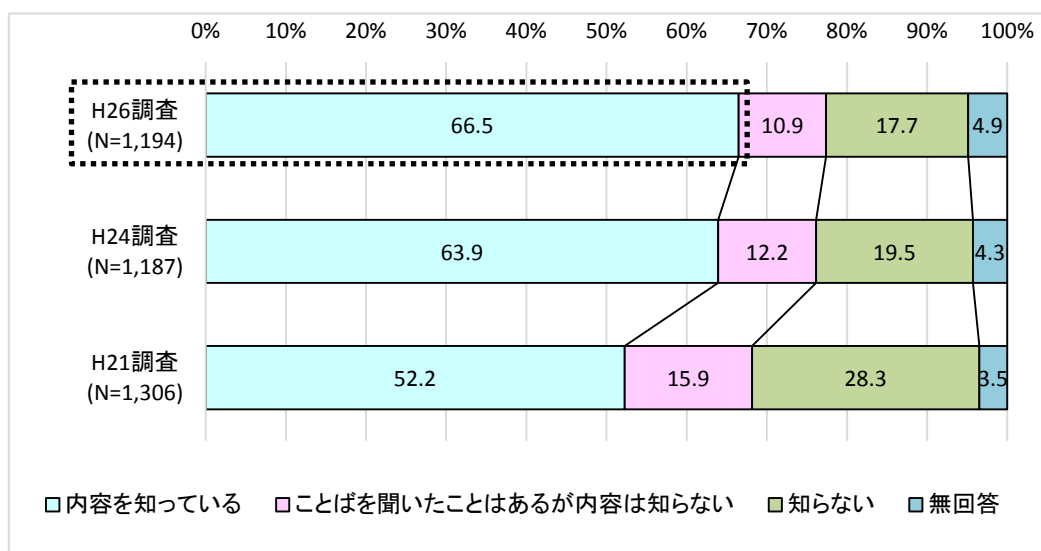


「地産地消」について内容を知っている人が7割近くを占める。認知度は着実に向上。

問 19 あなたは「地産地消」とは何か知っていましたか。(〇はひとつ)

- ・平成 21 年度（前々回）調査、平成 24 年度（前回）調査と比較すると、「地産地消」について「内容を知っている」の数値は平成 21 年は 52.2%だったのに対し、平成 24 年度は 63.9%で 11.7 ポイント増加し、今年度はさらに 2.6 ポイント増加して 66.5%と、「地産地消」の認知度は着実に向上している。

図 平成 21 年度、24 年度調査との比較『地産地消』の認知度（20 歳以上）



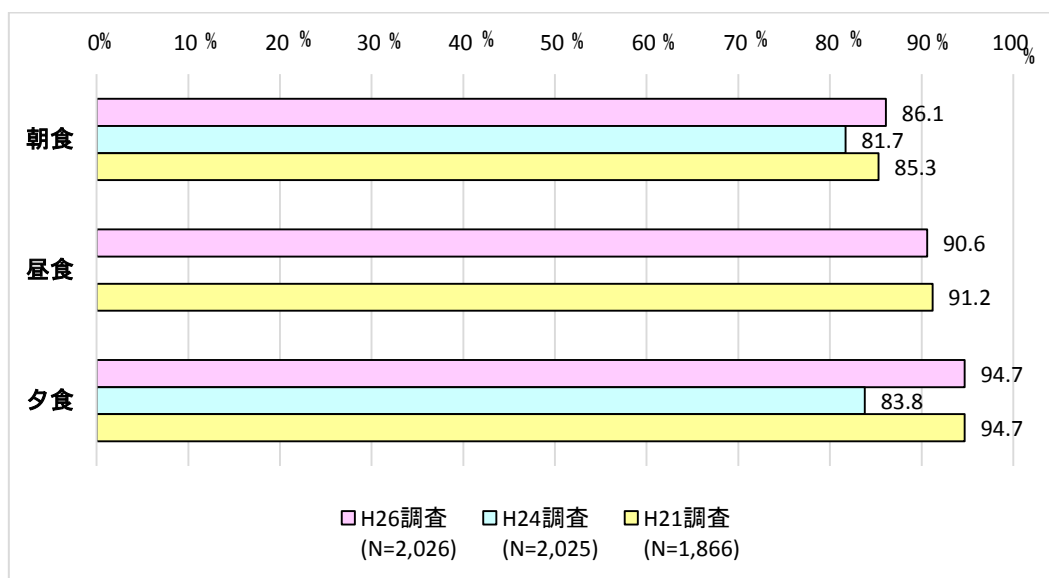
朝食を「ほとんど毎日食べる」人の割合は、9割弱。

問7 あなたはふだん、朝食・昼食・夕食をどの程度食べていますか。(〇はそれぞれひとつずつ)

- ・平成21年度（前々回）調査、平成24年度（前回）調査と比較すると、朝食を「ほとんど毎日食べる」市民の割合は前回調査より4.4ポイント増加して86.1%となっている。
- ・20代、30代男性の朝食欠食率を見ると、20代男性の欠食率は大きく改善し、27.3%となり、平成21年度（前々回）調査と比べ半減している。30代男性については、平成21年度調査の水準には達していないものの、前回調査より8.6ポイント減少し、37.1%となった。

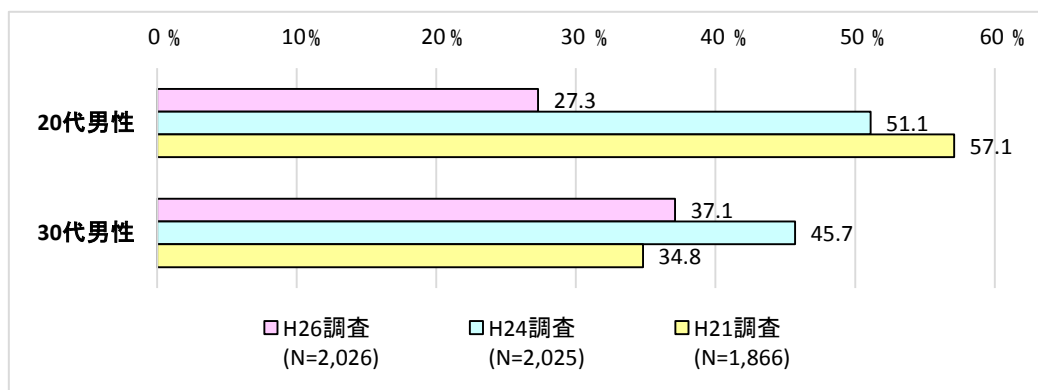
※「朝食の欠食率」は、「朝食を食べる日が、週5日以下」の市民の割合として算出している。

図 平成21年度、24年度調査との比較「食事をほとんど食べる（6日以上）人の割合」



注) 平成21年度は昼食についての調査項目がなかったため、比較データはありません。

図 平成21年度、24年度調査との比較「20代、30代男性の朝食欠食率」

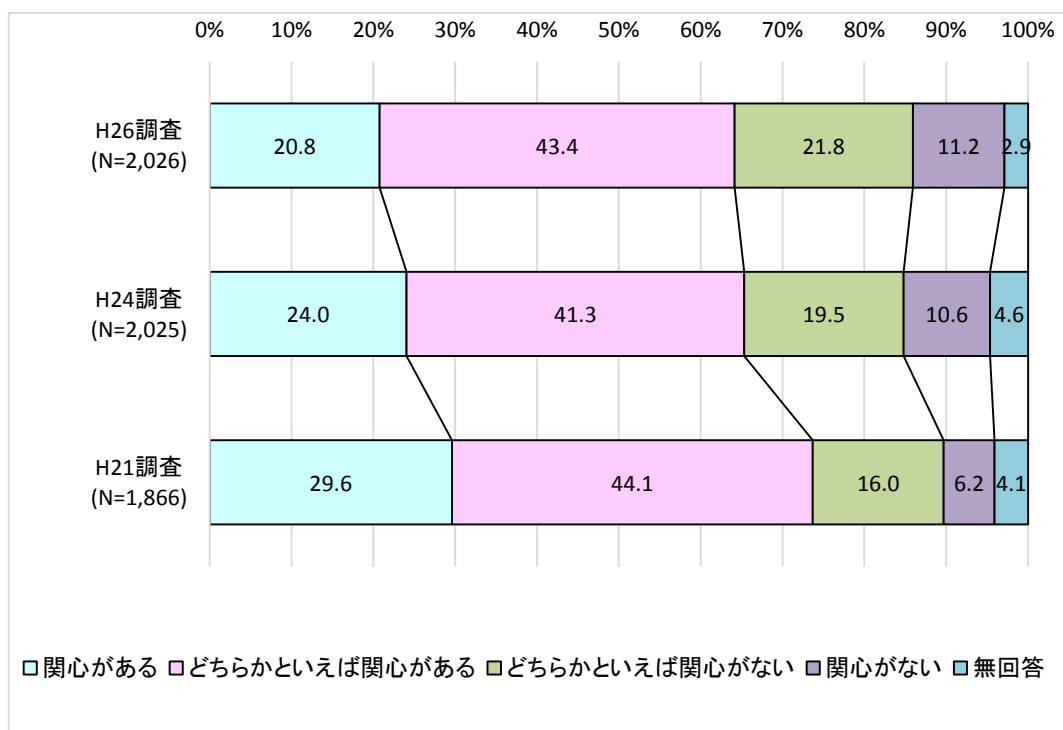


「食育」に関心がある人の割合は、さらに減少して 64.2%に。

問 14 あなたは「食育」に関心がありますか。(○はひとつ)

- ・平成 21 年度（前々回）調査、平成 24 年度（前回）調査と比較すると、食育に関心がある（「どちらかといえば関心がある」（43.4%）「関心がある」（20.8%）の合計）市民の割合は 64.2%で、平成 21 年度調査より 8.4 ポイント減少した前回調査の 65.3%と、ほぼ同水準となっている。一方関心がない（「関心がない」（11.2%）「どちらかといえば関心がない」（21.8%）の合計）市民は、前回調査の 30.1%より 2.9 ポイント増加し 33.0%となっている。

図 平成 21 年度、24 年度調査との比較「食育」の関心度

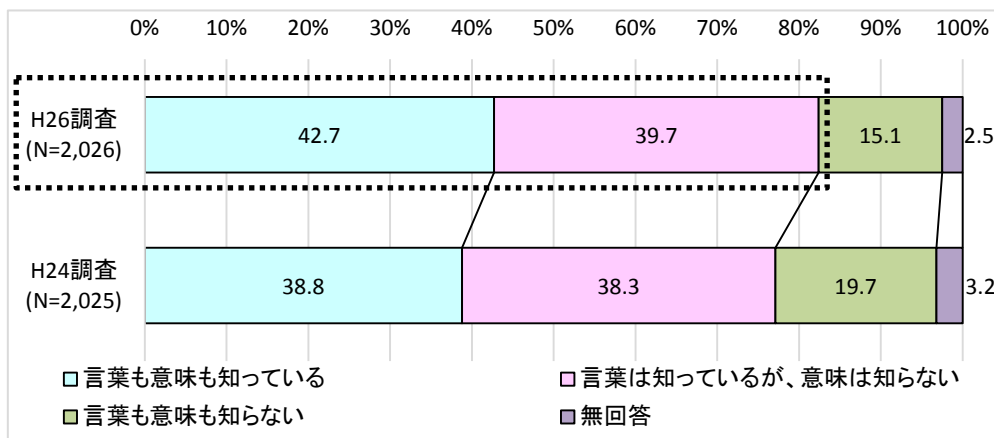


「食育」という言葉自体の認知度は8割を超えるが、その意味まで知っている人の割合は約4割。

問13 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていますか。(〇はひとつ)

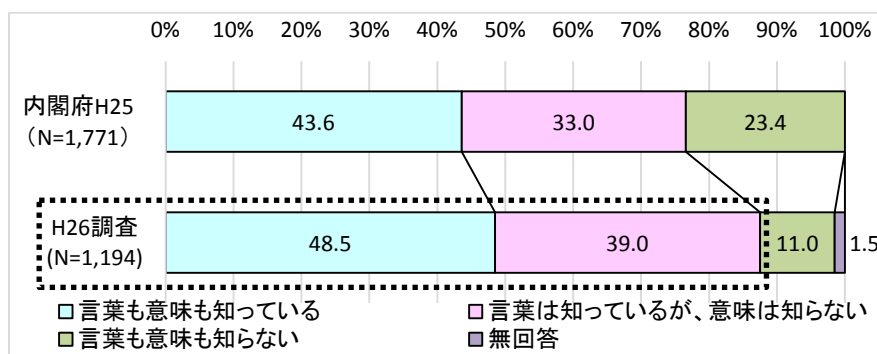
- ・前回(平成24年度)調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」が3.9ポイント増加(前回38.8%)、「言葉も意味も知らない」は4.6ポイント減少(前回19.7%)し、認知度は向上している。

前回(平成24年度)調査との比較



注) 平成21年度は、同項目の調査は実施しなかったため比較データはありません。

平成25年度内閣府調査結果との比較「食育の認知度」(20歳以上)



※内閣府調査の調査対象が20歳以上であるため、横浜市調査についても20歳以上で再集計しており、サンプル数は1,194となっている

～ 数値目標に該当する調査結果の詳細 ～

健康的な食生活を実践するため参考にしている指針等がある人の割合は、年代が上がると高くなるが、80歳以上は24.8%である。

問17 あなたは、健康的な食生活を実践するため参考にしている指針等がありますか。(〇はひとつ)

- ・健康的な食生活を実践するため「参考にしているものがある」20歳以上の市民の割合は29.8%である。
- ・年代別でみると、年代が上がると「参考にしているものがある」の割合が高くなり、70歳代は4割を超えるが、80歳代は全体の平均に近い28.4%となっている。

図 参考にしている指針等の有無

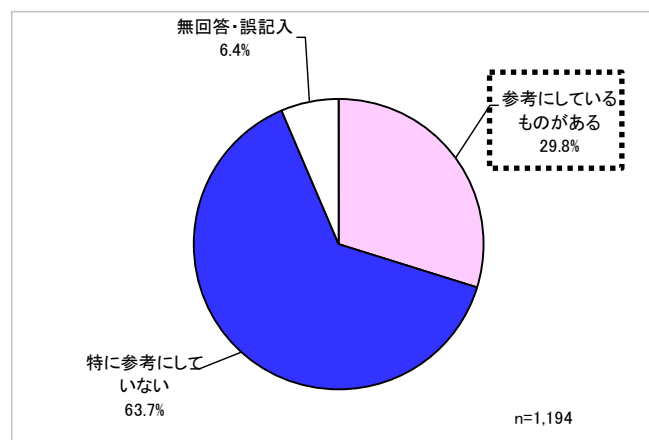
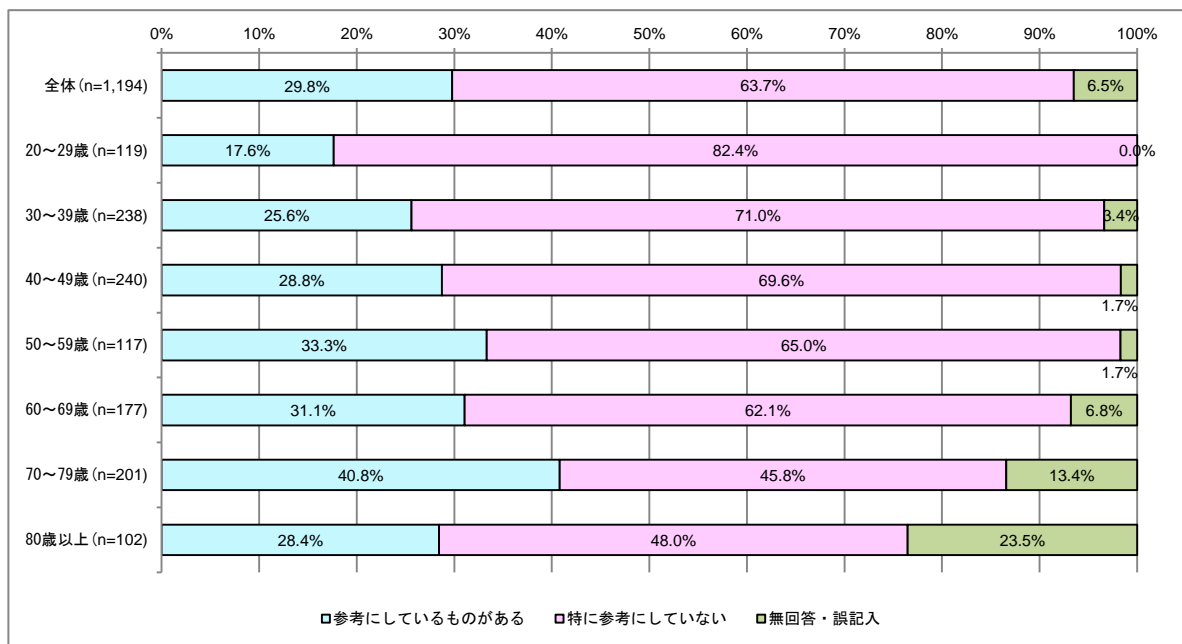


図 年齢別 参考にしている指針等の有無 (問17×F1)

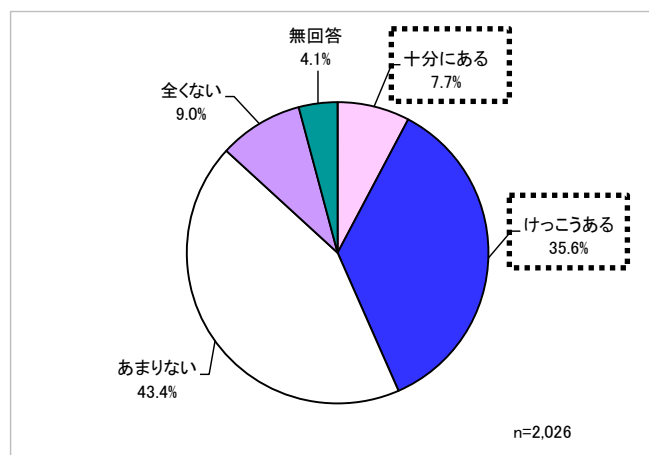


食品の安全性に関する知識について、30歳以上は、十分にある、けっこうある、と考える人の割合が4割を超え、50歳以上で半数を超える。

問24 あなたは、どの程度、食品の安全性に関する知識（食品の表示の見方や食中毒菌について等）があると思いますか。（〇はひとつ）

- ・食の安全性に関する知識を持っている（「十分にある」（7.7%）「けっこうある」（35.6%））市民の割合は43.4%となっており、前回調査の51.2%より減少し、平成21年度（前々回）調査の45.1%と同水準となった。

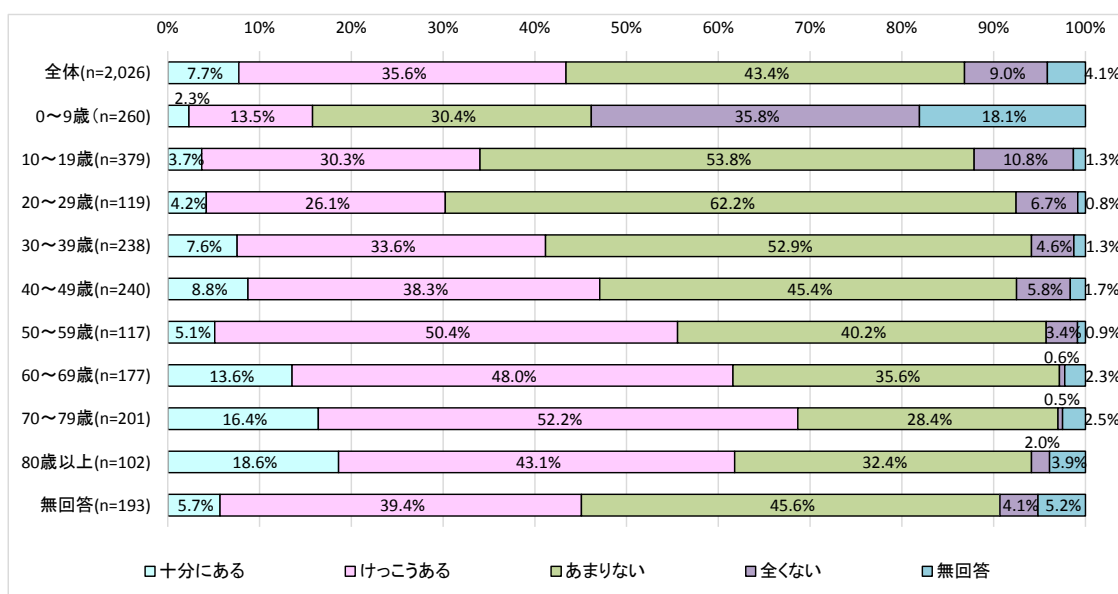
図 食品の安全性に関する知識



食品の安全性に関する知識を持っている人の割合は、若年層より高齢者層で高い。

- ・年齢別にみると、食の安全性に関する知識を持っている人の割合は若年層より高齢者層で高くなっている。

図 年齢別 食品の安全性に関する知識



「地産地消」につながるマークの認知度について、10代で「はま菜ちゃん」の認知度が高い。

問 20 あなたは、「地産地消」につながる以下のマークを見たことがありますか。(〇はいくつでも)

- ・「はま菜ちゃん」を知っている市民の割合は 30.8%（前回調査 35.2%）となっている。
- ・「10～19 歳」での「はま菜ちゃん」認知度は約 7 割と、特に高い数値となっており、次いで「40～49 歳」が 35.8%と平均を上回る数値となっている。
「はま菜ちゃん」は、学校給食の献立に掲載されており、学齢期とその保護者が多くいる年代での接触回数が高いことも要因と考えられる。
- ・「はま菜ちゃん」に次いで、「ハマッ子」（16.1%）、「はまぼーく」（14.5%）、「横濱ビーフ」（12.8%）、「田奈恵みの里」（5.2%）となっている。

図 「『地産地消』につながるマークの認知度」

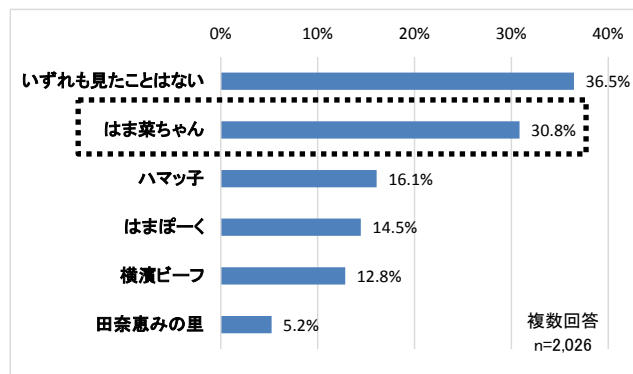


図 年齢別 「地産地消」につながるマークの認知度

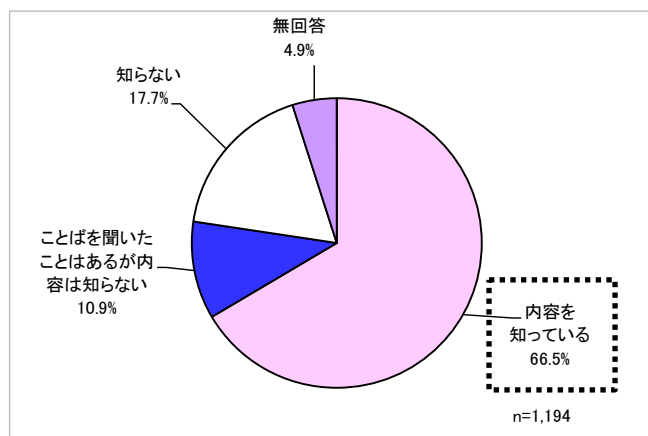
	合計	はま菜ちゃん	田奈恵みの里	横濱ビーフ	ハマッ子	はまぼーく	いずれも見たことはない
全体	2,026	30.8%	5.2%	12.8%	16.1%	14.5%	36.5%
0～9歳	260	23.1%	5.8%	7.7%	16.5%	9.6%	36.2%
10～19歳	379	69.9%	9.0%	13.5%	20.3%	13.7%	16.9%
20～29歳	119	28.6%	6.7%	13.4%	11.8%	10.9%	45.4%
30～39歳	238	18.9%	5.0%	13.9%	13.9%	17.6%	44.1%
40～49歳	240	35.8%	4.2%	15.0%	17.5%	21.3%	35.0%
50～59歳	117	26.5%	6.8%	17.1%	25.6%	27.4%	38.5%
60～69歳	177	10.2%	4.0%	12.4%	14.7%	10.7%	49.7%
70～79歳	201	14.9%	2.0%	11.4%	12.4%	9.0%	45.8%
80歳以上	102	9.8%	0.0%	13.7%	12.7%	7.8%	37.3%
無回答	193	23.8%	4.1%	13.0%	11.9%	17.1%	38.9%

「地産地消」について内容を知っている人が7割近くを占める。認知度は着実に向上。

問 19 あなたは「地産地消」とは何か知っていましたか。(〇はひとつ)

- ・「地産地消」について「内容を知っている」20歳以上の市民の割合は66.5%と7割近くを占めている。「ことばを聞いたことはあるが内容は知らない」「内容を知っている」を合わせると77.4%と、言葉自体の認知度は8割弱に達している。

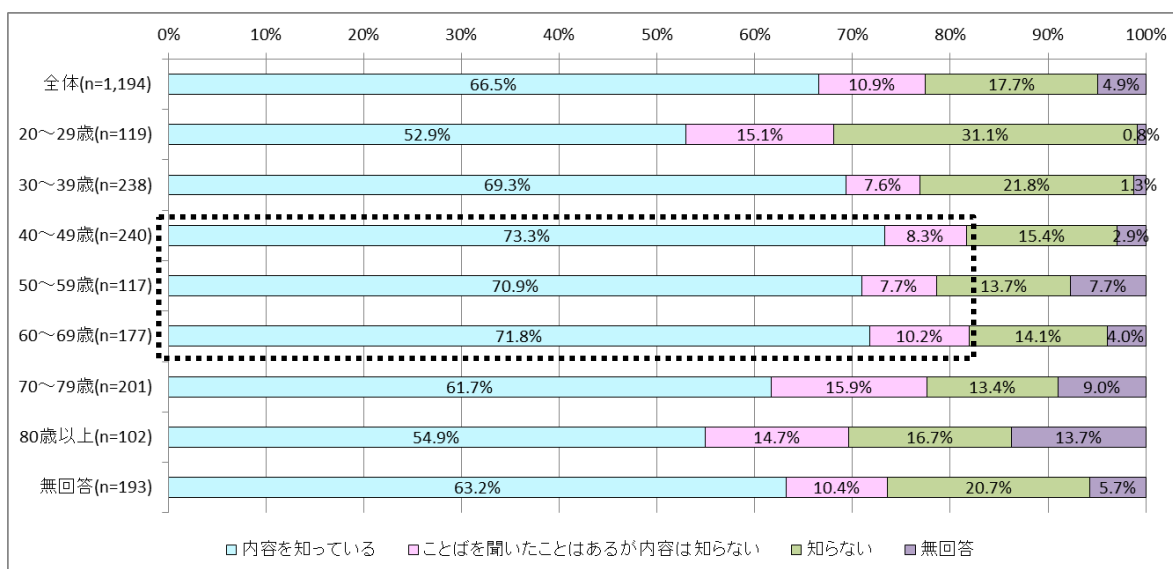
図 「地産地消」の認知度



「地産地消」についての認知度は中年層で高い傾向にある。

- ・年齢別でみると、「地産地消」について「内容を知っている」割合は40歳代から60歳代で7割を超え、特に中年層での認知度が高くなっている。

図 年齢別 「地産地消」の認知度



「地産地消」の認知度が高いほど、市・県内産農畜水産物の購入意向も高い。

- ・市・県内産農畜水産物の購入意欲（問 22）について、年齢別にみると、「80 歳以上」では「多少割高でも購入したい」の数値が全体値に比べて 10 ポイント以上高い数値となっている。
- ・さらに、「地産地消」の認知度別にみると、「地産地消」についての認知度が高いほど「多少割高でも購入したい」の数値が高くなっている。

図 年齢別 横浜市・神奈川県産農畜産物・水産物の購入意欲

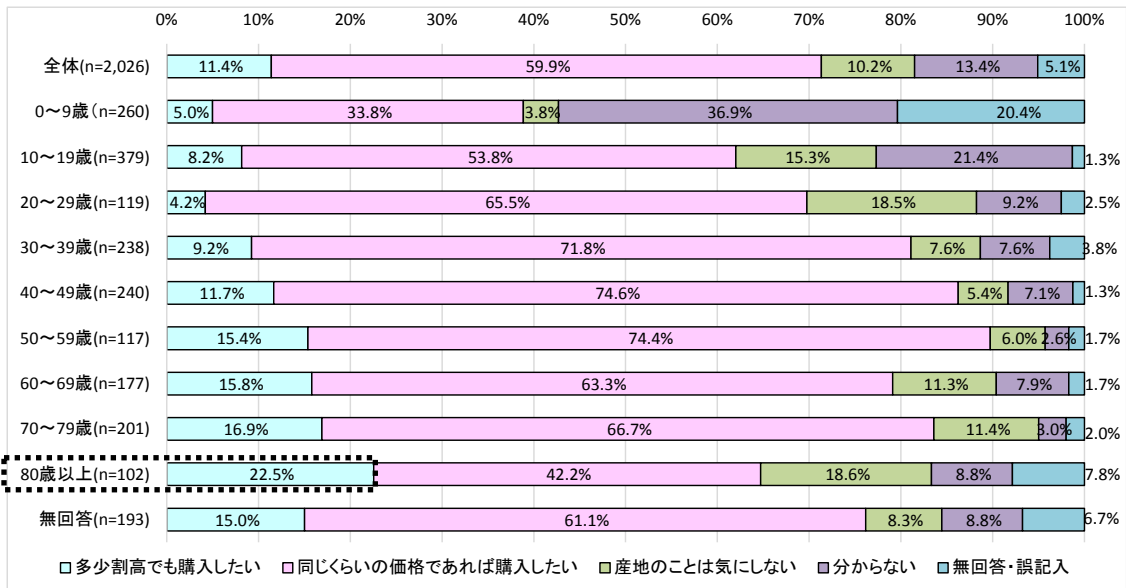
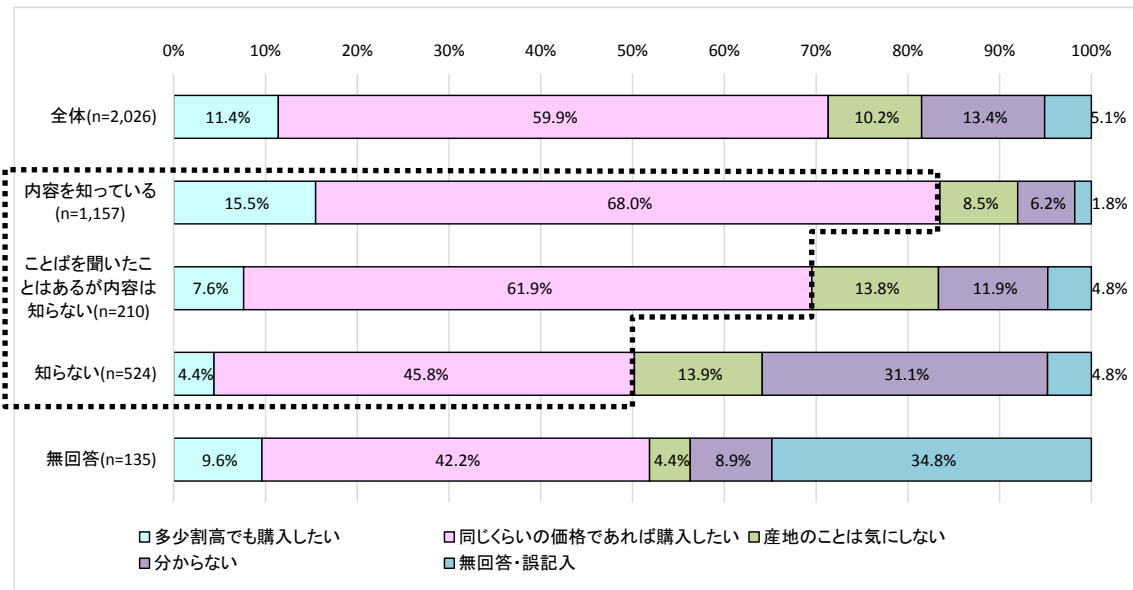


図 「地産地消」の認知度別 横浜市・神奈川県産農畜産物・水産物の購入意欲



朝食を「ほとんど毎日食べる」人の割合は、9割弱。

問7 あなたはふだん、朝食・昼食・夕食をどの程度食べていますか。(〇はそれぞれひとつずつ)

- ・朝食を「ほとんど毎日食べる」市民の割合は86.1%である。「ほとんど食べない」「週4～5日程度食べる」「週2～3日程度食べる」は3.3%で、これらを合わせると2,026人のうち258人が、週1回以上朝食を食べないとしている。
- ・昼食を「ほとんど毎日食べる」市民の割合は90.6%である。
- ・夕食を「ほとんど毎日食べる」市民の割合は94.7%で、「週4～5日程度食べる」「週2～3日程度食べる」「ほとんど食べない」ともいずれもわずかである。

図 朝食の摂取状況

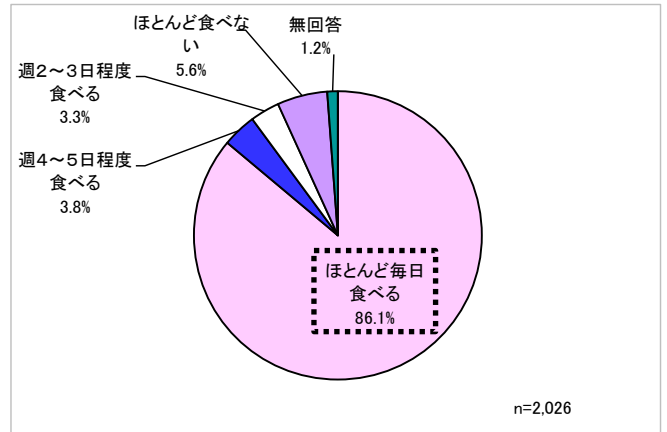


図 昼食の摂取状況

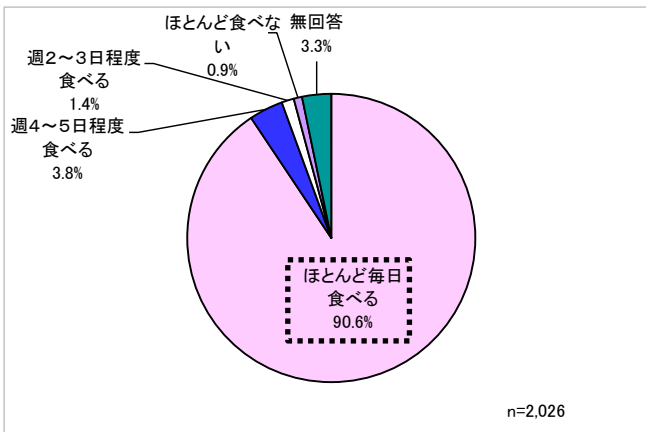


図 夕食の摂取状況

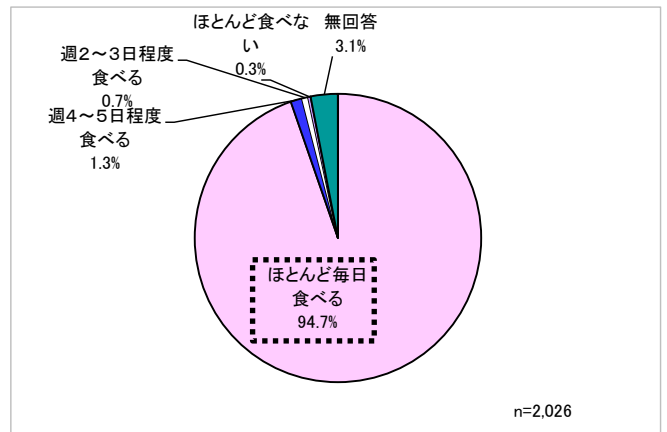
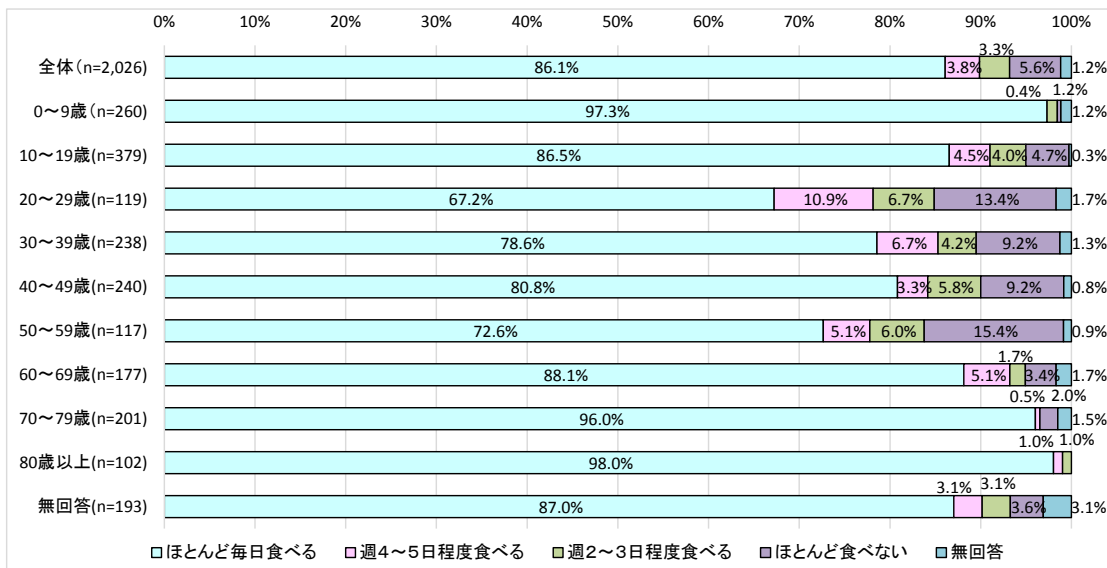


図 年齢別 朝食頻度



**20～40 代男性は、朝食を欠食する人の割合が高く、改善に向けた取組が必要。
家族等と同居している人は朝食を食べる割合が高い。**

- ・年齢別で見ると、「20～29 歳」「30～39 歳」での欠食率が高く、一方「60～69 歳」以上の世代では9割が「ほとんど毎日食べる」としている
- ・女性は、朝食を「ほとんど毎日食べる」人が、「0～9 歳」「60～69 歳」「70～79 歳」「80 歳以上」では9割を超えている。また、「20～29 歳」の欠食率が 33.3%となっている。
- ・男性は、「ほとんど毎日食べる」人が、「0～9 歳」「70～79 歳」「80 歳以上」では9割を超え、特に「80 歳以上」では 100%となっている一方、欠食率は、「20～29 歳」で 27.3%、「30～39 歳」で 37.1%、「40～49 歳」で 34.8%となっている。
- ・家族等と同居している人とひとり暮らしの人で、朝食をほとんど毎日食べる人の割合を比較すると、家族等と同居している人の方が約 20 ポイント多い。また、朝食をほとんど食べない人の割合は、家族等と同居している人と比べて、ひとり暮らしの人の方が 4 倍以上多く、生活環境が朝食の頻度に関係していると考えられる。

※「朝食の欠食率」は、「朝食を食べる日が、週 5 日以下」の市民の割合として算出している。

図 男女・年齢別 朝食頻度 <女性>

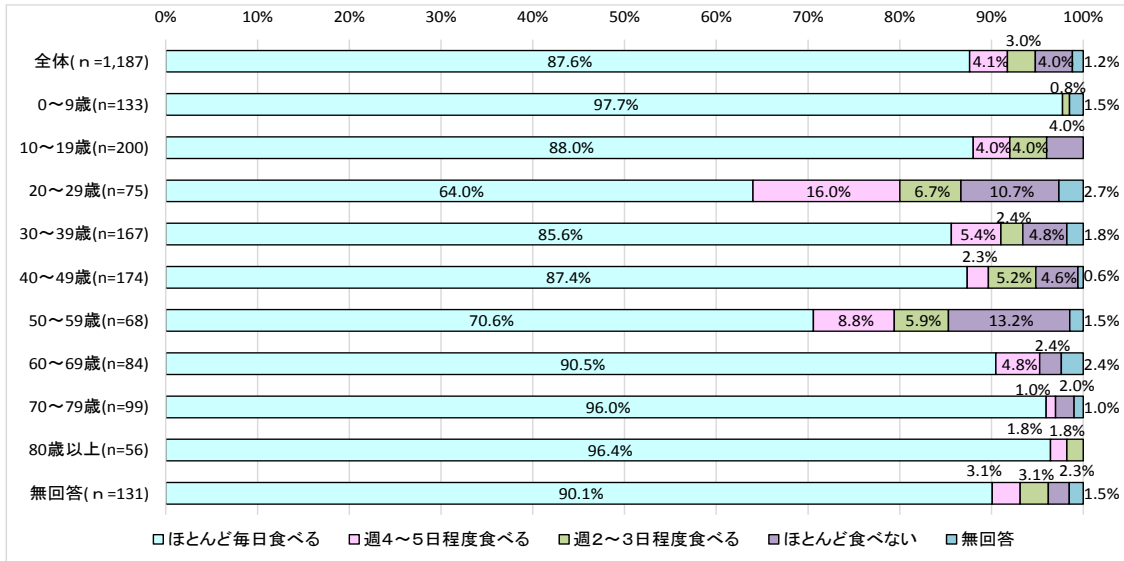


図 男女・年齢別 朝食頻度 <男性>

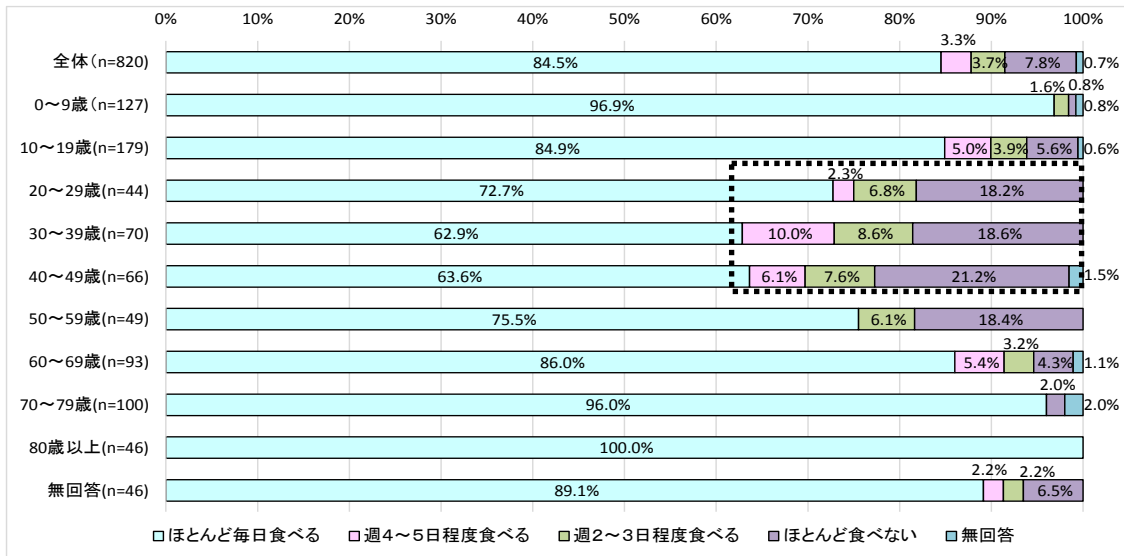
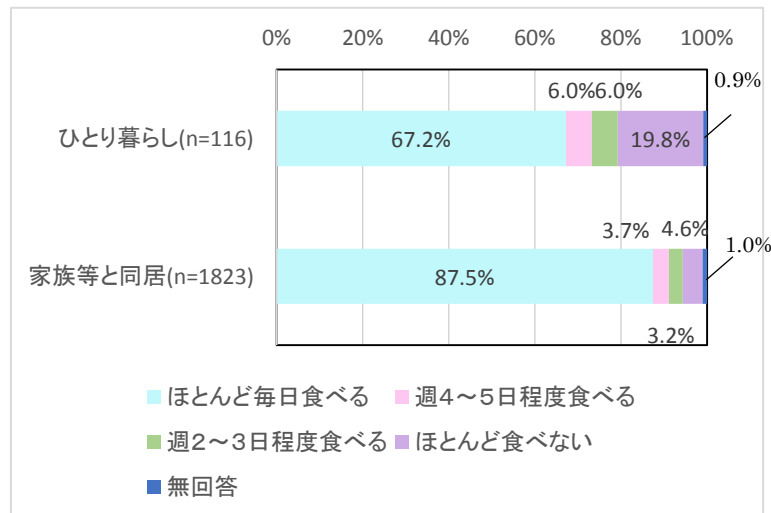


図 家族等との同居状況 朝食頻度



「食育」に関心がある人の割合は6割以上。

男性より女性の方が、関心がある人の割合が高く、特に30代女性で9割近い。

問14 あなたは「食育」に関心がありますか。(○はひとつ)

- ・食育に関心がある（「どちらかといえば関心がある」（43.4%）「関心がある」（20.8%）の合計）市民の割合は64.2%（前回調査65.3%）で、6割以上の方が食育について関心を持っているとしている。一方関心がない（「関心がない」（11.2%）「どちらかといえば関心がない」21.8%の合計）市民も33.0%（前回調査30.1%）と、全体のおよそ3分の1が食育に関心がないとしている。
- ・年齢別では、「30～39歳」で「関心がある」の数値が全体値を10ポイント以上上回っており、「どちらかといえば関心がある」と合わせると8割を超えている。
- ・20歳以上の男女・年齢別でみると、女性は男性より「関心がある」の数値が高く、特に「30～39歳」では「関心がある」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。男性は、「20～29歳」「40～49歳」「50～59歳」で「どちらかといえば関心がない」の数値が全体値を10ポイント以上上回っている。

図 「食育」の関心度

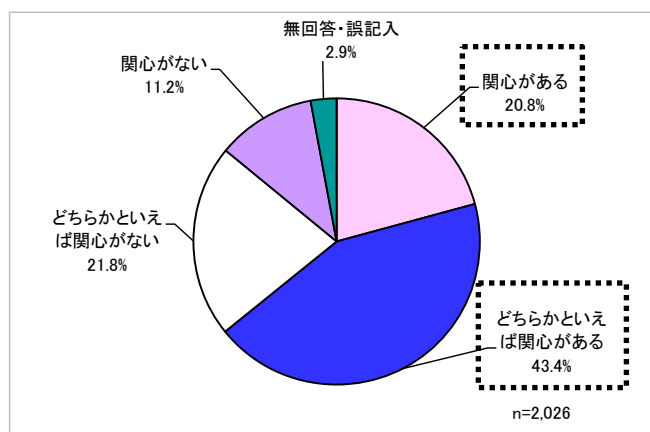


図 年齢別 食育の関心度

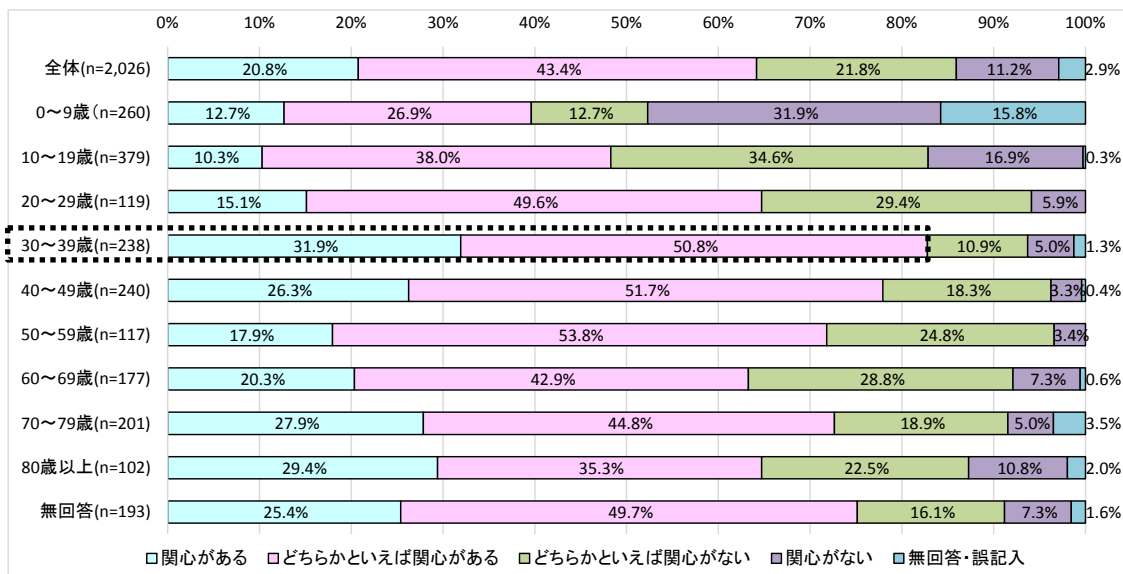


図 男女・年齢別 食育の関心度 <女性 20歳以上>

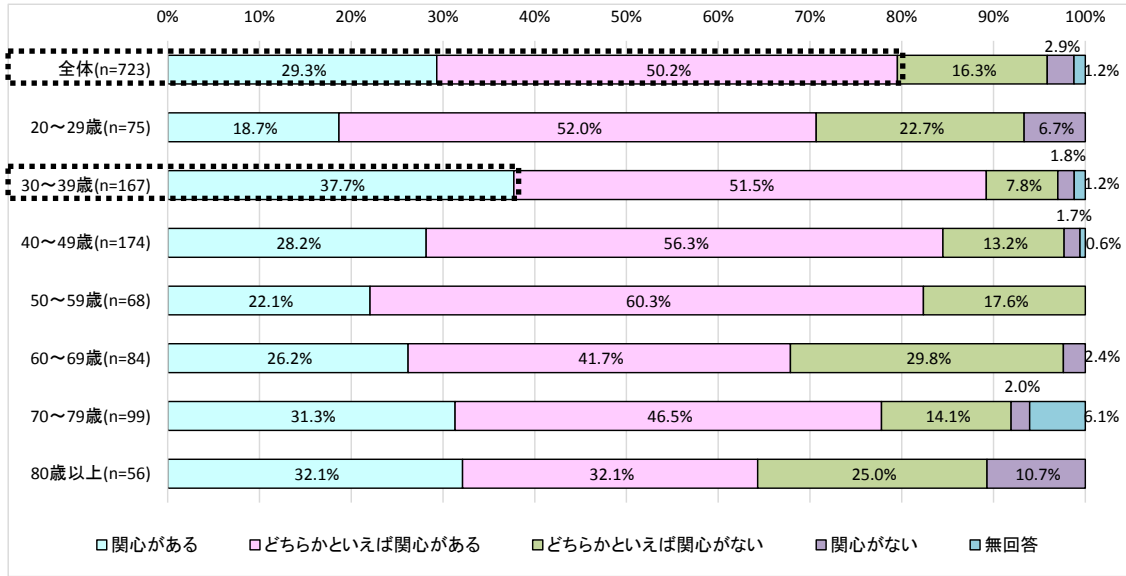
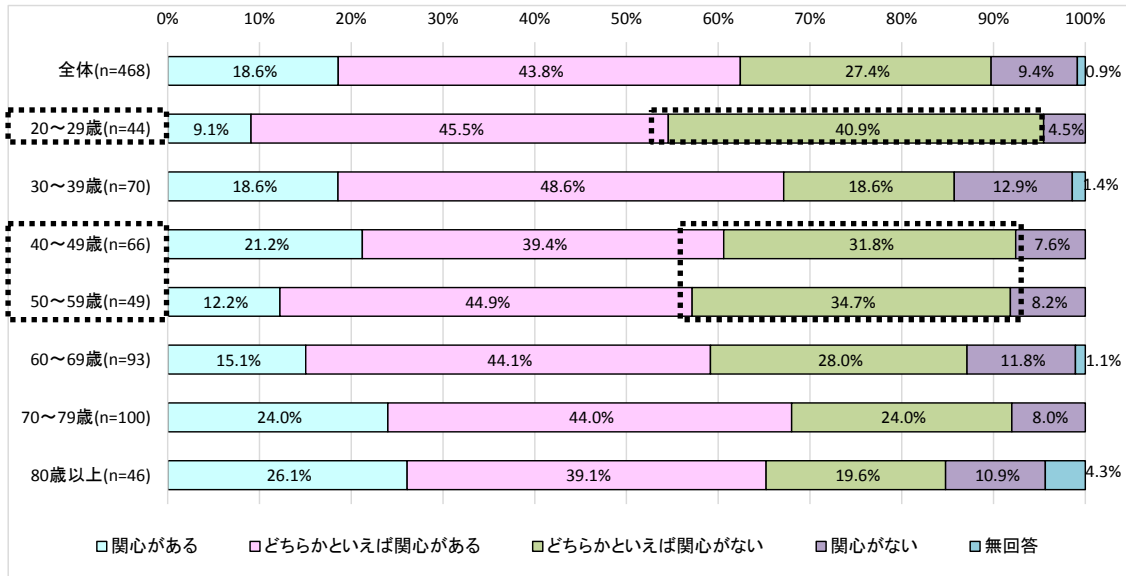


図 男女・年齢別 食育の関心度 <男性 20歳以上>



「食育」について「言葉やその意味を知っていた」人の割合は4割強。
 「食育」という言葉自体の認知度は8割を超える。

問13 あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていますか。(〇はひとつ)

- ・「食育」について「言葉も意味も知っている」が42.7%、「言葉は知っているが、意味は知らない」が39.7%で、「食育」という言葉自体を知っている市民の割合は82.4%となっている。
- ・年齢別にみると、「30～39歳」から「50～59歳」までの世代と「70～79歳」以上の世代では「言葉も意味も知っている」が最も多い。また「言葉も意味も知っている」「言葉は知っているが、意味は知らない」を合わせて言葉のみの認知度をみると、「10～19歳」から「50～59歳」までの世代で9割を超えている。

図 「食育」の認知度

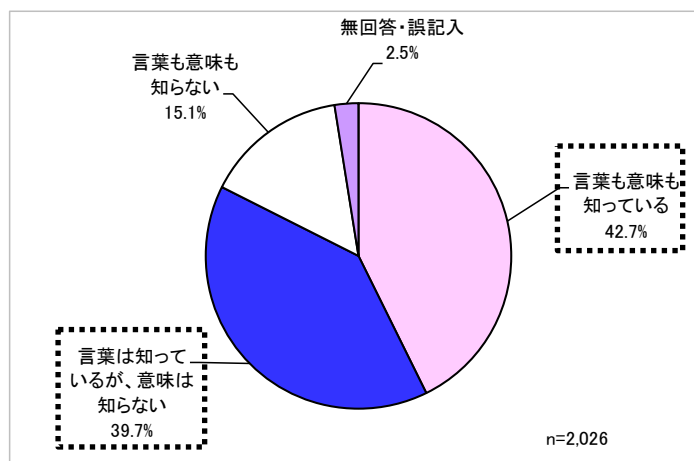
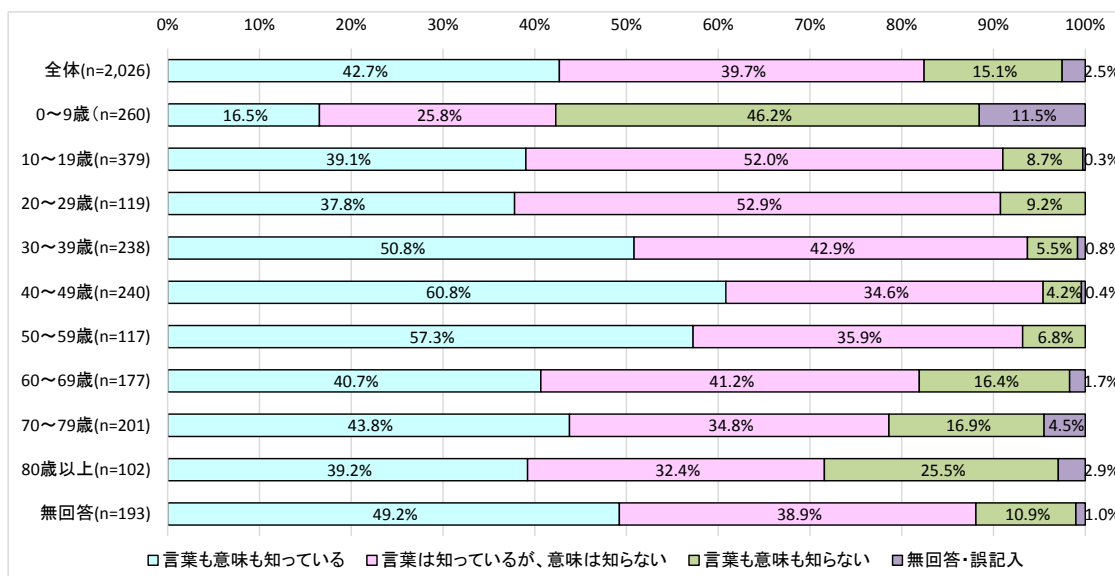


図 年齢別 食育の認知度



男性に比べて女性の方が、「食育」という言葉やその意味を知っている。
 40代、50代女性の6割以上が、「食育」という言葉やその意味を知っている。

- ・20歳以上の男女・年齢別でみると、「食育」という言葉やその意味を知っていたのは、女性は55.5%、男性は37.6%となっている。
- ・「40～49歳」「50～59歳」の女性では、「言葉も意味も知っている」人が6割を超えている。

図 男女・年齢別 食育の認知度 <女性 20歳以上>

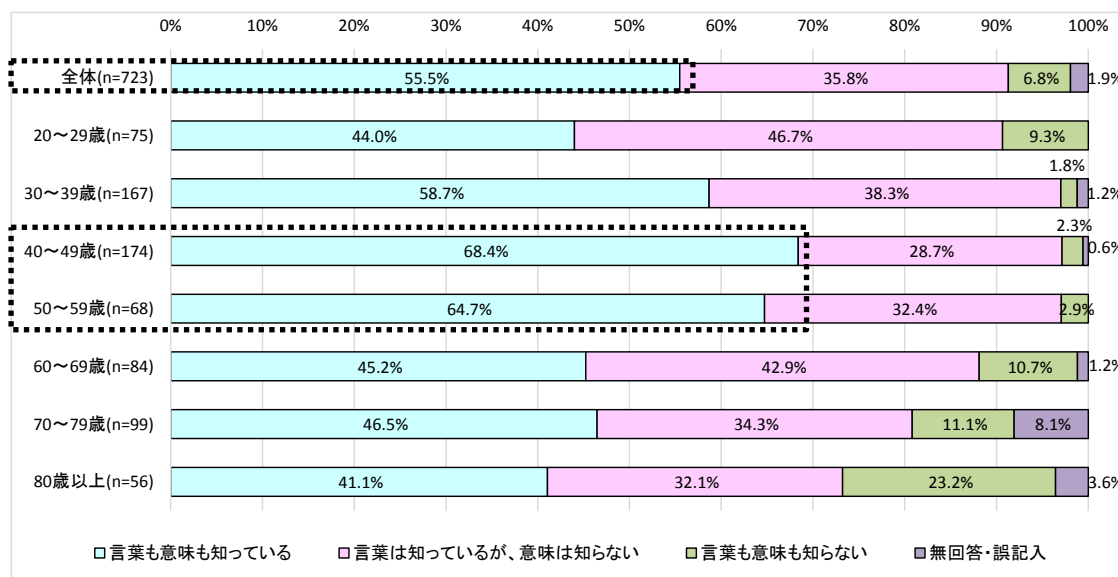


図 男女・年齢別 食育の認知度 <男性 20歳以上>

